

外科的肺生検施行例における、自己免疫学的特徴を持った間質性肺炎の検討

間質性肺炎は診断が不確実で治療選択肢が限られている病気です。間質性肺炎の原因は様々ですが、原因不明のものは特発性間質性肺炎と呼ばれ、びまん性に肺に炎症と線維化がおこって呼吸苦が悪化します。そのため、その病態の解明はとても重要です。

特発性間質性肺炎の方の中には、自己免疫疾患の診断基準は満たさないけれども、その症候・血清学的所見・組織所見を認める方々があり、2015年に自己免疫疾患の特徴を持った間質性肺炎（interstitial pneumonia with autoimmune features, IPAF）という疾患概念が提唱されましたが、その臨床的意義はまた確立していません。

そこで、2008年1月～2015年7月に公立陶生病院で間質性肺炎の診断のために外科的肺生検を行って診断された患者さんを、IPAFという視点で広く検討し、新しいIPAFの特徴を検討するため、該当する上記患者さんの診療情報を収集して解析を行います。

この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師・古川大記（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 谷口 博之
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 近藤 康博
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 古川 大記
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 森 裕太